

## ポートアイランド

●「港島（みなとじま）・港島中町（みなとじまなかまち）・港島南町（みなとじまみなみまち）・神戸空港（こうべくうこう）」の由来

ポートアイランドは神戸港に浮かぶ新たな海上都市である。この神戸初の人工島は、外国貨物の増大と港湾輸送方式の変化、そして都市機能充実のための新都市空間を創るために建設がなされた。昭和30年代に原口忠次郎元神戸市長が構想を打ち出し、宮崎辰雄元神戸市長のもとでその構想も現実のものとなったのである。工事は1966（昭和41）年に着工され、1981（昭和56）年に竣工するまで実に15年の歳月を要したビックプロジェクトであった。ポートアイランド埋立ての土砂は須磨高倉から運ばれたもので、8000万㎡（霞ヶ関ビル155杯分）にも及んだ。なお、須磨高倉の土砂を採り切り開いた所は今、須磨ニュータウンとなり、多くの住宅が建ち並んでいる。このポートアイランドに限らず、山を切り開きその土砂で海を埋め立てるといふ、このユニークな神戸市の手法はかつてアメリカの雑誌に"Mountain goes to sea"（「山、海へ行く」）として紹介されたことがある。ところで、このような神戸の山を切り開いて海を埋め立てるといふ方法は何も現代に始まったわけではない。今から約800年前にこれと同じ事を行なおうとした人物がいた。それが平清盛である。清盛は兵庫津の前身、大輪田ノ泊を承安年間（1171～4年）に改築し、その時塩樋山を切り開いて港に築島（経ヶ島）を築こうとしたのである。成功さえしなかったものの、今から800年前に今と同じような事をやろうとしていたのには驚嘆させられてしまう。

さて、ポートアイランドは総工費5300億円を要し、周囲14km、面積436ha（甲子園球場の120倍）の島として1981（昭和56）年に完成したが、それより前1972（昭和47）年に旧生田区に編入されている。港島と三宮を完成と同じ年に営業を開始した新交通システム・ポートライナーが結んでいる。ポートアイランドの完成した1981（昭和56）年にはポートアイランドの完成を祝いポートピア'81が開催され、多くの人々が会場に足を運び、新たな海上都市の門出を祝った。このポートピア博はその後各地で行なわれる地方博の先駆けとなったのである。

阪神・淡路大震災前は、11のコンテナバースと15のライナーバースを有し、神戸港のコンテナ貨物の約35%を取り扱っていた。現在では、コンテナ船の大型化に伴いコンテナバースの利用転換が必要となり、5つのコンテナバースが再開発エリアとして新たな都市型ウォーターフロントに再生されようとしている。そして、中央部分には多くの高層住宅が建設され、今では人口約1万5千人を有する海上都市となっている。

また、1986（昭和61）年から、ポートアイランドの沖合を埋め立てるといふポートアイランド二期工事（総面積390ha）が行なわれている。ポートアイランド二期では、成長産業・集客産業の立地を目指し、医療産業都市構想、神戸国際マルチメディア文化都市（キメック）構想、神戸国際ビジネスセンター、上海・長江交易港区などのプロジェクトが進められようとしている。

さらに、ポートアイランド（二期）の沖合には、2006（平成18）年2月16日に神戸空港が開港し、三宮とポートライナーの延伸線で結ばれることになった。地名も「神戸空港」となった。

なお、「港島」という地名は、ポートアイランドの直訳で、先に英語で島名をつけ、あとからその直訳を町名にしたものである。